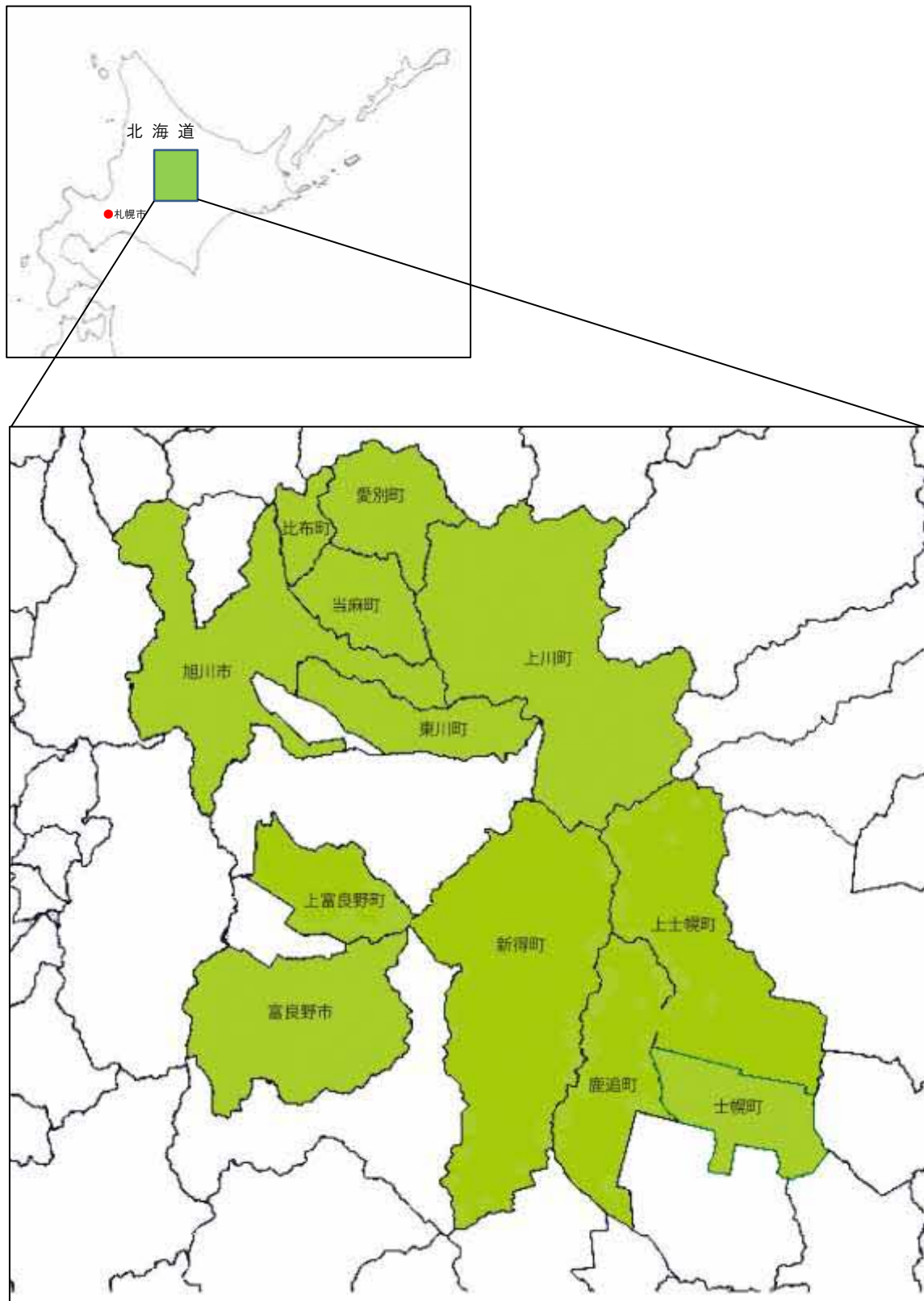


① 申請者	◎上川町、旭川市、富良野市、愛別町、上士幌町、上富良野町、鹿追町、士幌町、新得町、当麻町、東川町、比布町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
カムイと共に生きる上川アイヌ～大雪山のふところに伝承される神々の世界～			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
美しく厳しい大雪山のふところに、カムイ～神～を見出し共に生きた“上川アイヌ”。 彼らは激流^{ほとばし} 迸る奇岩の溪谷に魔神と英雄神の戦いの伝説を残し、神々への祈りの場として崇めた上川アイヌの聖地には、クマ笹で葺かれた家などによりコタンを形成し祈りを捧げ続ける。 上川アイヌは「川は山へ^{さかのぼ} 溯る生き物」と考え、最上流の大雪山を最も神々の国に近く、自然の恵みをもたらす、カムイミントラ～神々の遊ぶ庭～として崇拝してきた。 神々と共に生き、伝承してきた上川アイヌの文化は、この大地に今も息づいている。			
			奇岩が屹立するカムイコタン 上川アイヌの聖地～チノミシリ～ 神へ捧げる歌や踊り
			旭岳のお花畑 三国峠の大樹海 大雪高原沼 大雪山 ～カムイミントラ～ “神々の遊ぶ庭”

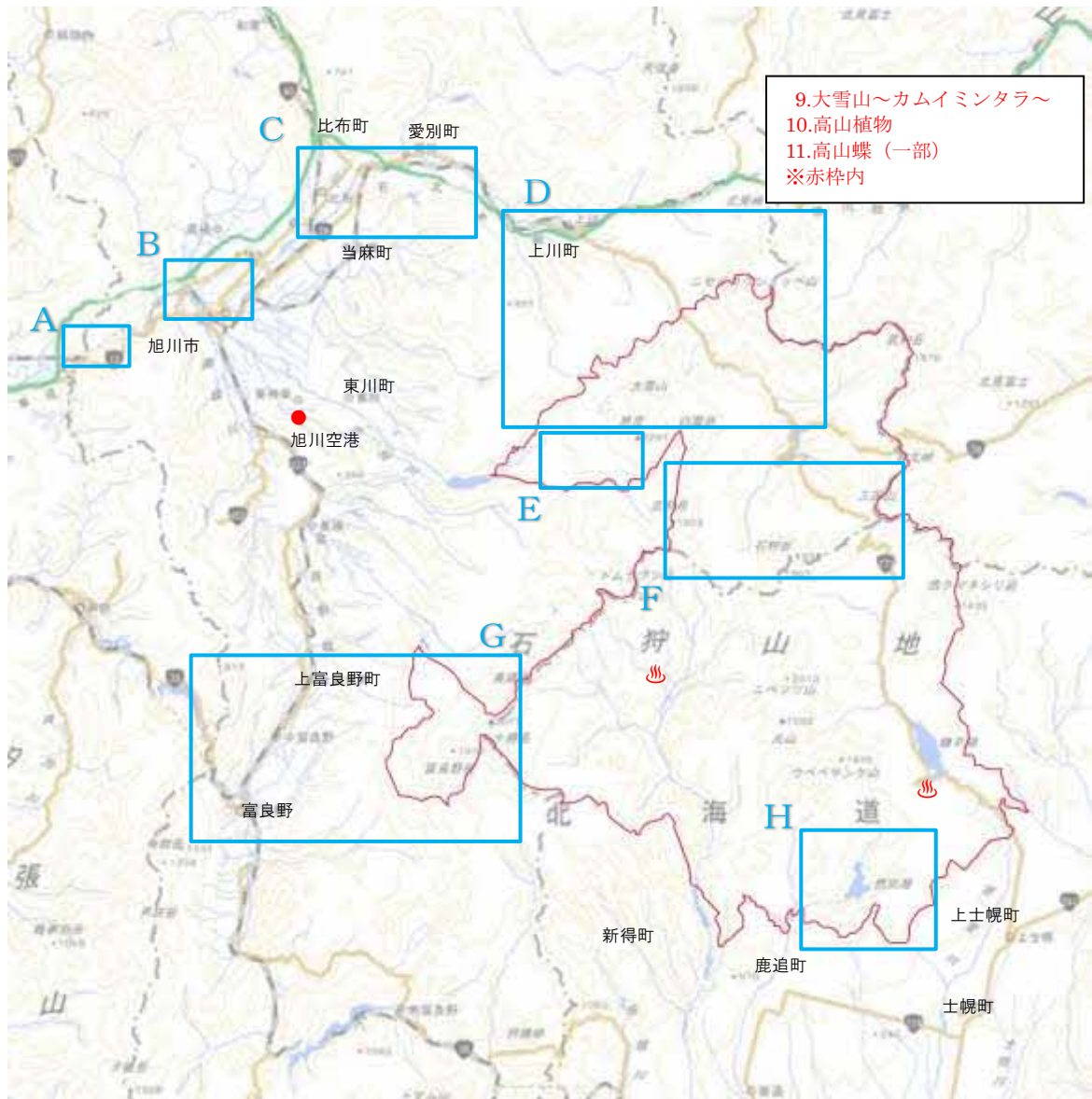
市町村の位置図（地図等）



構成文化財の位置図（地図等）

※構成文化財がある地域を拡大し、構成文化財の位置を示す

(様式3-1の番号に対応させること)

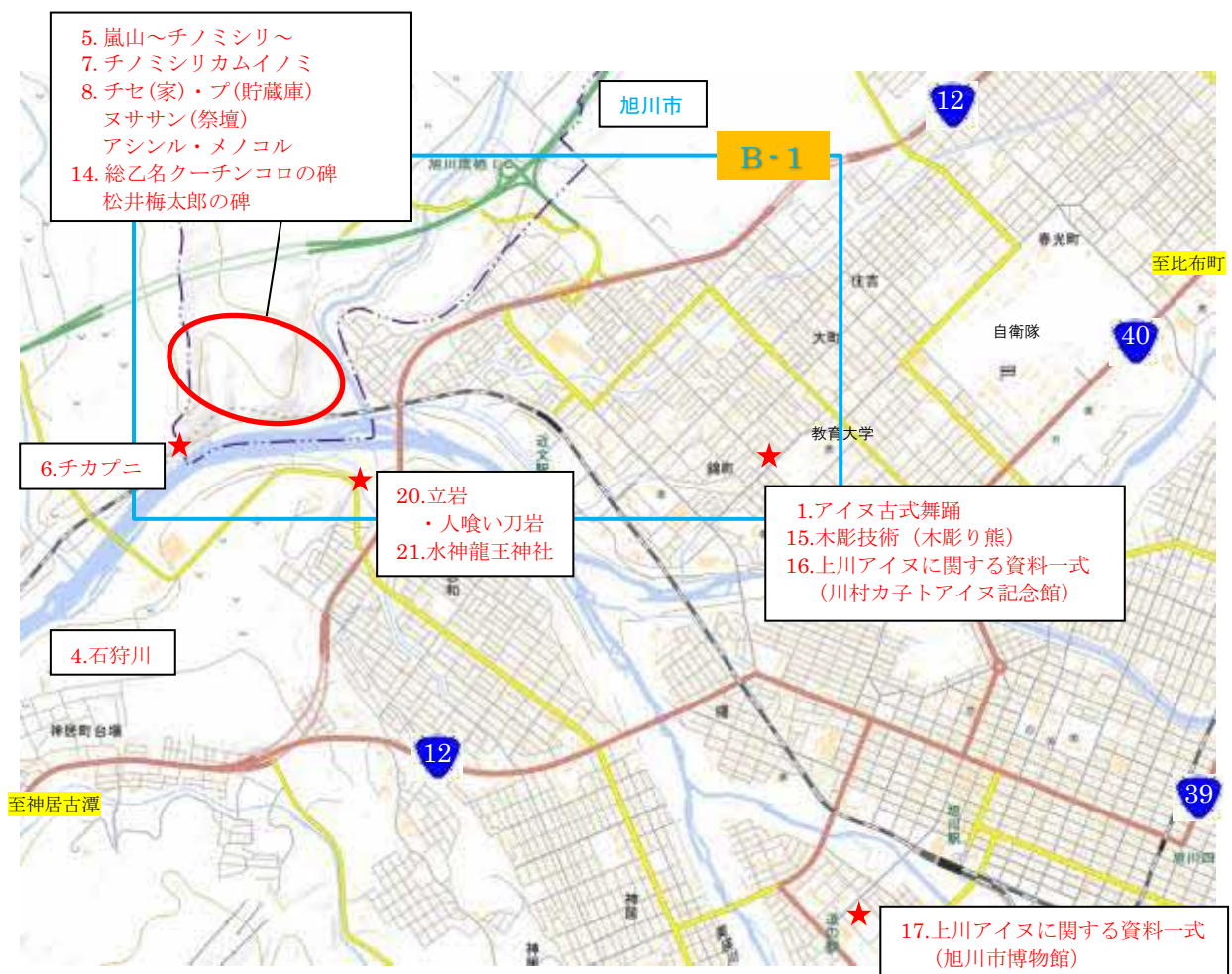


※「国土地理院の電子地形図（タイル）に市町村及び文化財の位置を追記して掲載」（以下頁の地図全て同じ）

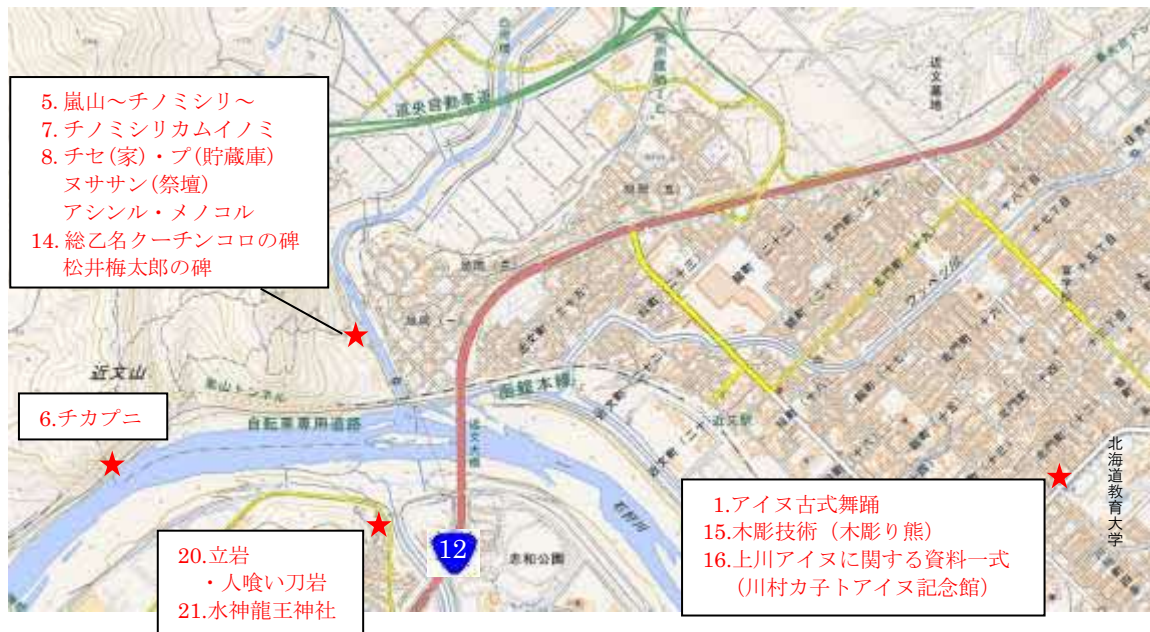
A



B



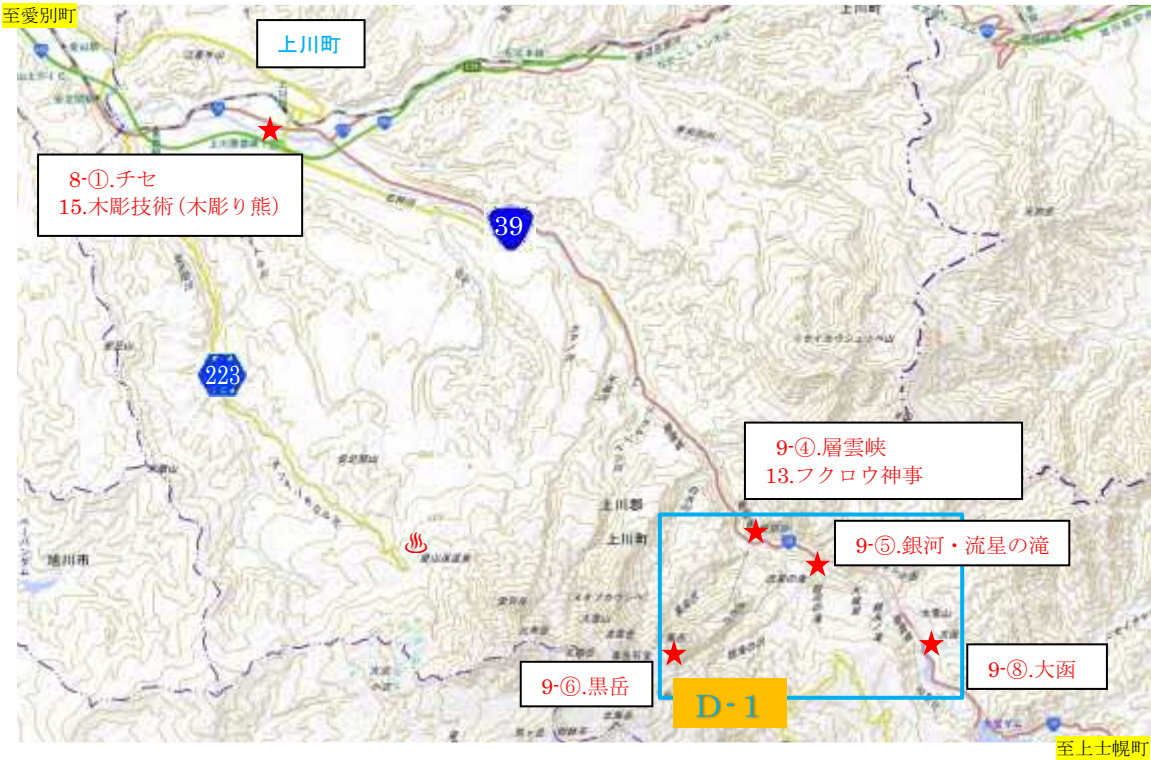
B - 1



C



D



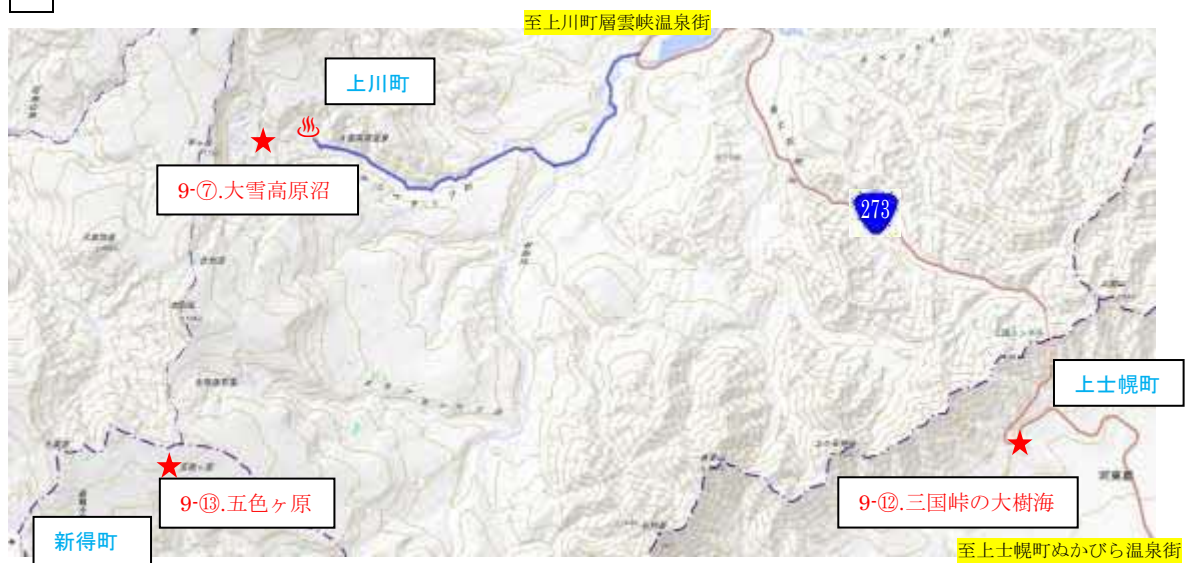
D-1



E



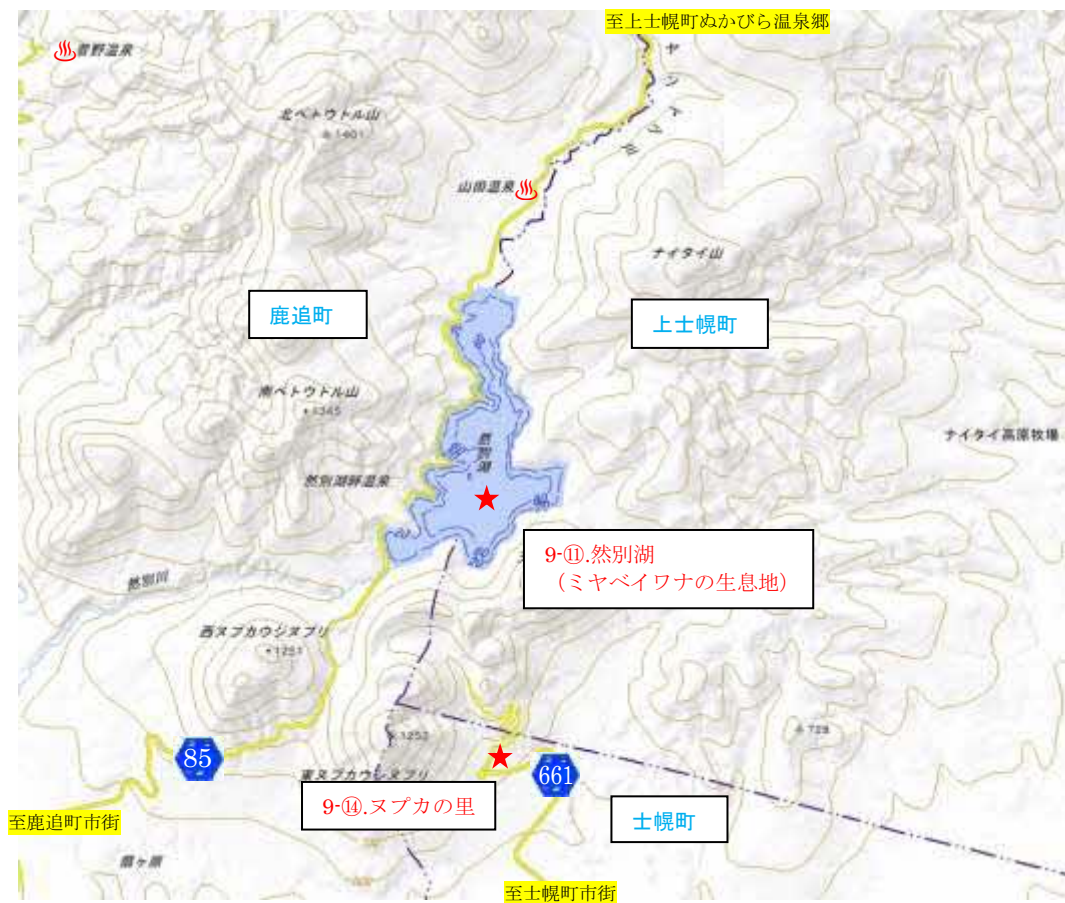
F



G



H



ストーリー

【カムイと共に生きる上川アイヌ】



神へ捧げる歌や踊り

神々の遊ぶ庭、大雪山のふところにおいて、アイヌの人々とカムイ（神）は対等の存在として共に生きてきました。

アイヌの人々は、自然・動物・植物・道具など人間をとりまくすべての事物には“魂”が宿っており、神はカムイモシリ（神々の国）から山や川、クマなど様々な事物に姿を変えて“カムイ”としてアイヌモシリ（人間の国）に下りると考えました。

アイヌの人々は、多くの恵みをもたらす“カムイ”に感謝し、祈りや供物を捧げ、カムイもそれにより力を得ます。一方、禍^{わざわい}をもたらす“カムイ”には、戒めとして罰を与えた後、改めて、更なる恵みを祈ります。

ペニウンクル（川上に住む人）と呼ばれた上川アイヌの人々は、「川は山へ^{さかのぼ}る生き物」であり、最上流の大雪山は、北海道最高峰であり、最もカムイモシリに近いところと考えました。彼らは、石狩川流域にコタン（集落）をつくり、河川の恵みによる交易で栄え、多くの出来事を伝説として語り継いできました。神の里から上川アイヌの聖地、神々の遊ぶ庭まで石狩川を遡り、かつて彼らが見てきた、そして現在も変わらぬ神々の世界を旅してみましょう。

【神の里 “カムイコタン”】

石狩川中流域のカムイコタンでは、兩岸に奇岩の大岩塊が屹立し、累々と横たわる巨岩の間を大滝のように激流が迸り、いかにも人智の及ばぬものが棲みついているかのような情景を見ることができます。

まだ道路もなく舟が重要な交通手段だった頃、カムイコタンの巨岩と激流は石狩川で一番の難所でした。川を遡ってきたアイヌはこの地を舟着き場とし、陸伝いに上流を目指しました。そのためカムイコタンには、人やモノの流通の場として集落が形成されていきました。

カムイコタンの激流はいくつもの渦をまき、時には舟を難破させ人々を飲み込みました。上川アイヌの人々は、この厳しい自然やその痕跡をカムイの仕業と考え、この地に魔神を見出しました。



川の神に祈りを捧げる儀式

激しい渦流によりできた何人も人が入れる大きな穴を「ニッネカムイ・オ・ラオシマ・イ（魔神が残した足跡）」、大口をあけて断末魔の叫びをあげているような形の奇岩を「ニッネカムイ・サパ（魔神の切り落とされた頭）」、首を切り落とされたような崖の上の巨岩を「ニッネカムイ・ネトパ・ケ（魔神の胴体の部分）」と名付けるなど、魔神と英雄神による戦いが繰り広げられたという壮大なストーリーを残しています。

現在においても、カムイコタンの歴史を偲び、「交通の難所・カムイコタンを無事に通れるように」と、川の神に祈りを捧げる儀式が行われています。



奇岩が屹立するカムイコタン

【上川アイヌの聖地 “チノミシリ” 嵐山】

カムイコタンから石狩川を溯ること十数キロ、川に面した大きな絶壁を持つ、上川アイヌがチノミシリ（我ら祀る山）と呼んだ嵐山です。アイヌの人々が舟でこの絶壁の前を通る際は、衣服を正し被りものを取り、畏敬の念を込めていたとされており、信仰上、極めて重要な地とされています。

その山の麓には、大きな母屋に小さな玄関が併設され、全体がクマ笹で葺かれた数軒のチセ（家）が立ち並びます。母屋は中心



嵐山のクマ笹で葺かれたチセ

に炉があり、1年を通じて火の神が祀られるため、土間が蓄熱し、厳冬期も比較的暖かであったと言われています。部屋の一番奥にある窓は、神々が入り出す神聖な窓であり、そこからチセの中を覗くことは許されませんでした。

チセの隣のクマ笹で葺かれた高床式の食料庫と玄関から少し離れた男性・女性用が別のトイレ、そしてチセの一番奥の窓の外にある神々を祀る祭壇によりアイヌのコタンが構成されています。

今もなお、上川アイヌの神々への祈りは捧げ続けられ、石狩川と嵐山の豊富な自然により繁栄した、かつての上川アイヌの暮らしを垣間見ることができます。



コタンの平和や幸福を願う儀式

【神々の遊ぶ庭 “カムイミンタラ” 大雪山】



大雪山の雄大な自然

嵐山から石狩川を最上流まで遡れば、かつて上川アイヌが見た情景がそのまま残る、神々の国に最も近い大雪山です。原始的で壮大な山岳風景の中に360度のパノラマが展開し、真夏でも残る白い雪渓と、ハイマツの緑、白や赤で彩られた高山植物の絨毯が敷きつめられ、周辺には大雪山系でしか見られないウスバキチョウが黄色い花びらのように舞い、その美しいコントラストには誰しもが驚かされます。山麓には、天まで広がる絶壁、猛々しさと優美な美しさを兼ね備えた滝、数多の生命を育む湖などの自然の楽園が迎えてくれます。また、日本一早く色づき始める大雪山の紅葉は、天空の花畑を燃え盛るように染め、その壮大なスケールと絶景は観るものを魅了します。

アイヌの人々にとっての大雪山は、神がもたらす豊かな食料の宝庫でもあり、魔神がもたらす天災など人々の暮らしを脅かすものであると考えられ、その様から、カムイミンタラ（神々が遊ぶ庭）として呼ばれ、崇拝と畏怖の対象とされてきました。

大雪山では、最も格式の高いシマフクロウを神々の国に送る儀式や、山に入る者の安全を祈る祭事を現在も行っており、自然と共に生き、自然の恵みに感謝するアイヌの営みを感じることができます。



山に入る者の安全を祈る儀式

【カムイと共に生きる人々の営み】

明治後期の和人の流入により、上川アイヌの人々は何度も土地を追われ、生活様式が激変し、理不尽な暮らしを余儀なくされました。当時の強制移転に反対し、人々の生活の場を守った上川アイヌの長は、アイヌの聖地で今でも英雄として語り継がれています。北海道士産として有名な木彫熊は当時の厳しい暮らしの中で、新しい産業としてこの地でその技術を誕生させました。大雪山のふところでは、今もなお上川アイヌの営みが息づき、文化や歴史を発信し続けています。



上川アイヌの長に感謝を捧げる祈り

上川アイヌが見出したカムイは、他にも「地獄に通ずる穴」や「アイヌの古戦場」「底無し沼と妖刀」など、数々の伝説や歴史を残し、各地で今も語り継がれています。

これらの自然景観とアイヌが織り成す神秘は永遠であり、手で触れ足で踏みその目で確かめたとき、訪れる人々は、上川アイヌが見出したカムイの世界に引き込まれることでしょう。



上川アイヌの歴史を伝える資料

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
カムイと共に生きる～上川アイヌ				
1	こしきぶよう アイヌ古式舞踊	国指定 重要無形 民俗文化財	アイヌの人々は、折に触れ、儀礼を通し、神との間に良い関係を築き上げてきた。その儀礼の際には必ず歌（ウポボ）や踊り（リムセ）が披露され、神々に捧げられてきた。 「ウェカップ」「イラッ ウポボ」「ウコウク」は、上川アイヌの発祥であり、「チカプ ウポボ」は、大雪山に関連する踊りである。	旭川市
神の里“カムイコタン”				
2	かむいこたん 神居古潭 ～魔神と英雄神の激闘～	未指定	神居古潭は、丸木舟を使い交流や交易をしていた上川アイヌの人々にとって重要な交通の要衝であり、険しい断崖と激流は、最大の難所でもあった。神居古潭には、これらの環境が魔神の仕業によるものであるという伝説が残っている。 アイヌに害を及ぼそうとしたニッネカムイという魔神を、サマイクルという英雄神が征伐しようと刀を振りかざし戦った地。	旭川市
	かむいこたん けつぐん ①神居古潭おう穴群 ニッネカムイ・オ・ ラオシマ・イ ～魔神の足跡～	市指定 記念物	伝説に出てくる魔神が残した足跡。 おう穴とは河床の岩盤の窪みに入った小石が渦流により回転してできた穴。同じ場所で石が回転するため、少しずつ窪みが深くなって行き、時には岩盤を貫通することもある。	旭川市
	②魔神の胴体 ニッネカムイ・ ネトパ・ケ	未指定	アイヌの伝説に登場する岩。 魔神ニッネカムイの胴体。切り離された頭は、対岸に残されている。	旭川市
	③魔神の頭 ニッネカムイ・サパ	未指定	アイヌの伝説に登場する岩。 魔神ニッネカムイの頭。切り離された胴体は、対岸に残されている。	旭川市
3	カムイノミ	未指定	カムイコタンを無事に通れるように、神に祈りを込めてイナウと呼ばれる木幣を石狩川に捧げる儀式。	旭川市
4	石狩川	未指定	アイヌの人にとって、海から集落をとおり山（大雪山）へ行く生き物と考えられていたとされる石狩川は、食糧、特にサケ類を捕獲するための大切な場であり、また丸木舟による輸送・交通のための重要なルートでもあった。 石狩川には、下流域から最上流の大雪山まで、多くのアイヌ伝説が残っている。	旭川市 比布町 当麻町 愛別町 上川町

上川アイヌの聖地“チノミシリ” 嵐山				
5	嵐山 ～チノミシリ～	未指定	上川アイヌの人たちが古くからチノミシリ(我ら・祀る・山)と呼び「聖地」として崇拝した地域。この地では動物の頭骨をはじめ、イナウ(木幣)、漆の椀などが発見された。動物や器物に宿る魂を天に送り返す儀式が昭和まで行われていた、極めて重要な地。現在は、かつてのアイヌの人々の営みを体験することができる。	旭川市
6	チカプニ	未指定	上川盆地の直前、石狩川に面してそそり立つ絶壁がある。上川アイヌは、ここでは、衣服を正し被りものを取り、畏敬の念を込めひれ伏した。ここには、鹿さえも簡単につかんで飛ぶことができる鳥がいたという伝承がある。	旭川市
7	チノミシリカムイノミ	未指定	1年の無事に感謝し、コタンの平和や幸福を願う儀式。火の神・家の神・自然の神に祈りを捧げる	旭川市
8	①チセ(家) ②プ(貯蔵庫) ③ヌササン(祭壇) ④アシンル(男性用トイレ) メノコル(女性用トイレ)	未指定	上川アイヌ独特のチセ等を製作する技術が伝承されている。 上川地方のチセは他地域のチセとは異なり、屋根も壁もクマ笹で葺かれ、その厚みは20cm程度あり、夏は涼しく暑さをしのぎやすく、冬は暖かい作りになっている。セム(玄関兼物置)という張り出しが付く。 また、プ(貯蔵庫)や祭壇であるヌササンなどで構成する、基本的なアイヌコタンをみることができる。	旭川市 (一部上川町)
神々の遊ぶ庭“カムイミントラ” 大雪山				
9	大雪山 ～カムイミントラ～	国指定(一部) 特別天然記念物	360度広がる大パノラマ。万年消えることのない大雪渓。断崖絶壁から落ちる優雅な滝。天空に広がる湖。百花絢爛と咲きほこる高山植物。ここにしか生息しない美しい高山蝶。一面に広がり燃えるような紅葉。そこで神様が舞い踊る。アイヌの人々は、その美しい大雪山をカムイミントラ(神々が遊ぶ庭)と呼び、崇敬と畏敬の対象とした。 石狩川が向かう場所。	富良野市 上富良野町 上士幌町 上川町 鹿追町 士幌町 新得町 東川町
	神々の遊ぶ庭“カムイミントラ” 大雪山の構成要素			
	あさひだけ ①旭岳	国指定 特別天然記念物	大雪山最高峰の山。アイヌの人々は、山頂を最も神の世界に近いと考えた。 四季折々めまぐるしく変化する大自然の様子は圧巻。高山植物の花々が足元を美しく染める。	東川町
	はごろも ②羽衣の滝	道指定 名勝	落差270mで、絶壁を7段に屈折しながら落下する複雑な水の流れとなっている。景観の素晴らしさと水の流れが天女の羽衣を思わせる。	東川町

9	③ 天人峽 てんにんきょう	未指定	切り立った崖に囲まれ、四季折々に織りなす美しい景観が広がる。空に向かって雄々しく突き出している柱状節理は絶景である。	東川町
	④ 層雲峽 そううんきょう	未指定	天高く突き出す奇岩溪谷が約15kmにわたって続く絶景が広がる。	上川町
	⑤ 銀河・流星の滝	未指定	断崖絶壁の間を寄り添うように流れる2本の優雅な滝。	上川町
	⑥ 黒岳 くろだけ	国指定 特別天然記念物	高山植物の華麗なお花畑が広がり、その山岳景観は壮大。秋には燃えるような紅葉が広がり、四季により姿を変え、人々を魅了する。	上川町
	⑦ 大雪高原沼 たいせつこうげんぬま	未指定	高原に広がるいくつもの神秘的な沼。静かな湖面には、春夏秋冬の景色を映しだす。	上川町
	⑧ 大函 おおぼこ	未指定	柱状節理の巨大な岩壁が屏風のように規則正しく並ぶ壮大な景観が広がる美しい溪谷美。	上川町
	⑨ 原始ヶ原 げんしがはら	未指定	原始的な風景がそのまま残る高層湿原。	富良野市
	⑩ 十勝岳 とかちだけ	国指定 特別天然記念物	多彩な高山植物が咲き誇り、360度の壮大な絶景が広がる。	上富良野町 新得町
	⑪ 然別湖 しかりべつこ (ミヤベイワナの生息地)	未指定 (道指定 天然記念物)	雄大な大雪山に囲まれるようにある天空の湖。そこに生息するオショロコマは独特の進化を遂げ、ミヤベイワナと呼ばれている。	鹿追町 上士幌町
	⑫ 三国峠の大樹海	未指定	大雪山の壮大な山岳風景を上から見渡すことができ、樹海の絶景が広がる。	上士幌町
	⑬ 五色ヶ原 ごしきがはら	国指定 特別天然記念物	大雪山の秘境中の秘境。標高差350mの傾斜をもって横たわる高原は、広大、かつ、華麗なお花畑が広がる。	新得町
	⑭ ヌプカの里	未指定	雄大な大雪山を望むことができる高原。多彩な高山植物を間近で満喫することができる。	士幌町
10	高山植物 ～コマクサ等～	未指定	200種類以上にも及ぶ高山植物や華麗なお花畑がいたるところで広がっている。	富良野市 上富良野町 上士幌町 上川町 鹿追町 士幌町 新得町 東川町
11	高山蝶 ・ウスバキチョウ ・アサヒヒョウモン ・ダイセツタカネヒカゲ ・カラフトリシジミ	国指定 天然記念物	大雪山系に生息する希少な高山蝶。ウスバキチョウ、アサヒヒョウモンは、大雪山にのみ生息する。	富良野市 上富良野町 上士幌町 上川町 鹿追町 新得町 東川町

12	ヌプリコロカムイノミ	未指定	もっとも神の世界に近いとされる旭岳の麓で行われている祭事。 山に入る者の安全を祈る。	東川町
13	フクロウ ^{しんじ} 神事	未指定	アイヌの神を送る行事として、今から数百年位前までイヨマンテの中で、最も格式の高かったと言われるコタンコロ、モシリコロカムイと呼ばれるシマフクロウを天に送る儀式があった。狩猟で得た動物の霊を神に送るときに使われ、その儀式は、数日に渡って行われたと記録に残る。	上川町
カムイと共に生きる人々の営み				
14	偉大なる祖先を讃える儀式 ^{そうおとな} ①総乙名クーチンコロ ②松井梅太郎	未指定	明治2年、兵部省石狩役所から発せられた強制移転命令に反対し、上川アイヌの人々の生活の場を守りとおしたリーダーであるクーチンコロや、大正末期から木彫熊の創作を始め、振興発展と後進の指導育成に尽力した上川アイヌの木彫りの開祖である松井梅太郎を称える儀式。	旭川市
15	木彫 ^{もくちょう} 技術 (木彫り熊)	未指定	熊の木彫りは、和人の流入により急激な生活様式の変化に直面した上川アイヌが、新たな生業の一つとして始めたものである。現代では、和を含めその技術は伝承され、モチーフとなる動物は熊以外にも広がっている。	旭川市 上川町
16	上川アイヌに関する資料一式 (川村カ子トアイヌ記念館)	未指定	現代においても、上川アイヌの人々によって文化の伝承を続けている重要な拠点には、上川アイヌの歴史・資料が展示してあるほか、アイヌ文化の体験もできる。	旭川市
17	上川アイヌに関する資料一式 (旭川市博物館)	未指定	アイヌ民族の文化に重点を置いた展示を行っている。アイヌ文化に関する収蔵資料は数千点に及び、上川アイヌの歴史等を学ぶことができる。	旭川市
18	^{とっしょうざん} 突 哨 山 ①突哨山チャシ	未指定	突哨山の麓、石狩川にはサケの産卵床があり、上川アイヌの人々はここを漁場としていた。また、突哨山にはチャシがあったとされ、幾つもの伝説が残されている。	比布町
	②地獄に通ずる穴 アブン・ル・パル洞穴	未指定	突哨山にまつわるアイヌ伝説。突哨山の洞穴の中の世界に入り込んだ二人の老人が命からがらもとの世界に戻る。一人は二度と行きたくない、もう一人はまた行きたいという、行きたがった老人は、まもなくぼっくりと亡くなってしまった。洞穴の一部は現在も残っている。	比布町
19	石垣山 ・サン山の神 ・アイヌの古戦場	未指定	断崖絶壁の柱状節理がある場所。 この山に、病魔などを一喝して追い払う力を持ったサン・コロ・カムイという神がいたという。また、アイヌの古戦場となったと言う伝説も残り、壕の跡や縄文時代の矢じりなども出土している。	愛別町

20	立岩 ・人喰い刀岩	未指定	巨大な 2 本の赤い岩が今にも倒れそうな危うい 感じで立っている。その近くには以前底無し沼 があった。 底無し沼と妖刀にまつわる伝説の舞台。	旭川市
21	水神龍王神社	未指定	昭和 32 年、祠を私費で修復した篤志家が、工事 の際に発見した古刀をご神体として祀った神 社。この刀がアイヌの伝説に登場する妖刀と結 びつき、伝承・伝説の地となっている。	旭川市

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、
県有形、市無形等）。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明になら
ないように注意すること）。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまた
がる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

1. アイヌ古式舞踊



2. ^{かむいこたん}神居古潭～魔神と英雄神の激闘～



2-①. 神居古潭おう穴群 “ニッネカムイ・オ・ラオシマ・イ” ～魔神の足跡～



2-②. 魔神の胴体 “ニッネカムイ・ネトパ・ケ”



2-③. 魔神の頭 “ニッネカムイ・サパ”



3. カムイノミ



4. 石狩川



5. 嵐山～チノミシリ～



6. チカプニ



7. チノミシリカムイノミ



8-①. チセ（家）



8-②. プ（貯蔵庫）



8-③. ヌササン（祭壇）



8-④. アシシル・メノコル



9. 大雪山～カムイミンタラ～



9-①. ^{あさひだけ}旭岳



9-②. ^{はごろも}羽衣の滝



9-③. ^{てんにんきょう}天人峡



9-④. ^{そうんきょう}層雲峡



9-⑤. 銀河・流星の滝



9-⑥. 黒岳



9-⑦. 大雪高原沼



9-⑧. 大函 おおほこ



9-⑨. 原始ヶ原 げんしがはら



9-⑩. 十勝岳



9-⑪. 然別湖 しかりべつこ (ミヤバイワナの生息地)



9-⑫. 三国峠の大樹海



9-⑬. ^{ごしきがはら}五色ヶ原



9-⑭. ヌプカの里



10. 高山植物



11. 高山蝶【ウスバキチョウ】



【カラフトルリシジミ】



12. ヌプリコロカムイノミ



13. フクロウ神事



14. 偉大なる祖先を讃える儀式



そうおとな
総乙名クーチンコロの碑



松井梅太郎の碑



もくちょう
15. 木彫技術 (木彫り熊)



16. 上川アイヌに関する資料一式 (川村カ子トアイヌ記念館)



17. 上川アイヌに関する資料一式
(旭川市博物館)



18. 突哨山
18-①. 突哨山チャシ



18-②. 地獄に通ずる穴 “アフン・ル・パル洞穴”



19. 石垣山・サン山の神・アイヌの古戦場



21. 水神龍王神社



20. 立岩・人喰い刀岩



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
55	カムイと共に生きる上川アイヌ～大雪山のふところに伝承される神々の世界～

(1) 将来像 (ビジョン)

『神々の遊ぶ庭』と呼ばれる大雪山、その麓には、上川アイヌの人々が自然から様々な恩恵を授かり生活文化を形成し、今もなお息づいています。ペニウクル（川上に住む人）と呼ばれた上川アイヌの人々は、「川は山へ溯る生き物」であり、最上流の大雪山を、最上流の大雪山を最も神々の国に近く、自然の恵みをもたらす、カムイミントラ～神々の遊ぶ庭～として崇拝してきました。

石狩川を最上流まで遡れば、かつて上川アイヌが見た情景がそのまま残る、神々の国に最も近い原始的で壮大な大雪山の山岳風景が展開し、真夏でも残る白い雪渓、ハイマツの緑、白や赤で敷き詰められた高山植物の絨毯、黄色い花びらのように舞う天然記念物のウスバキチョウ、それらの美しいコントラストには誰しもが驚かされます。

山麓では、天まで広がる絶壁、猛々しさと優美な美しさを兼ね備えた滝、数多の生命を育む湖などの自然の楽園が迎えてくれます。また、日本一早く色づき始める大雪山の紅葉は、天空の花畑を燃え盛るように染め、そのスケールと絶景は現代も観るものを魅了しております。

アイヌの人々にとっての大雪山は、神がもたらす豊かな食料の宝庫でもあり、魔神がもたらす天災など人々の暮らしを脅かすものであると考えられ、その様から、カムイミントラ（神々が遊ぶ庭）として呼ばれ、崇拝と畏怖の対象とされてきました。しかしながら、明治後期の和人の流入により、上川アイヌの人々は何度も土地を追われ、生活様式が激変し、理不尽な暮らしを余儀なくされました。そのような当時の厳しい暮らしの中でも、この地で木彫り等の技術を誕生させました。大雪山の麓では、今もなお上川アイヌの営みが息づき、文化や歴史を発信し続けてきております。

本計画は、そういった上川アイヌの営みの中にある、大雪山麓の地域の歴史的・文化的資源を磨き上げながら、都市部や海外からより多くの観光客を呼び込むような取り組みを計画的に行い、地域活性化を推し進めます。

本圏域では、アイヌが培ってきた歴史や文化を次世代へ継承するとともに、大雪山をはじめとした文化財の保全と利活用を進める動きが展開されております。大雪山を擁する山々は軟弱な溶岩台地と冬の厳しい積雪と春の融解、とりわけ近年の気候変動により、侵食による荒廃が進行し、そこに生息している高山植物をはじめとした固有種の生息が脅かされている中、現在大雪山では協働型管理運営が進められ、行政予算のみに頼らない利用者の協力金による構成文化財の補修が進められております。また、その雄大な景色や歴史的資源を楽しみに年間十数万訪れる大雪山は利用による荒廃も進行していることから、利用者自らがボランティアで「山に恩返し」を行う取組も近年進められております。

このような利用者参加型の保全と利用を同時に進め、かつて上川アイヌが見た情景や築いてきた歴史を感じる機会を将来に亘り来訪者に提供し、文化財と共生した地域文化の発展、地域住民が誇りに思える状態を目指します。構成地域では、総合計画及びアイヌ施策推進地域計画において、観光振興を基軸とした地域活性化計画のほか、アイヌの人々の誇りが尊重され、魅力と活力のある地域社会の実現に向けた取組が進められております。また、一部地域では魅力ある観光地を推進するため、利用拠点計画を作成し日本遺産認定地域に見合った観光地の上質化が図られております。以上より、日本遺産が地域の歴史文化の魅力を伝えるストーリーとしての重要な役割を担っており、地域経済及び環境保全に寄与し、構成地域を横断的に連携させ活性化を推進していることから、引き続き圏域の保全と利用の調和にむけた取組を展開していきます。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－A：アイヌ関連施設観光客入込み数

年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	117,453	114,410	150,000	154,500	159,135	163,909
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		アイヌ関連施設観光客数：（単位：人） 2023 年度協議会内観光入込客数の対前年度比 3%増を目標として設定				
目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						

指標①－B：宿泊者数

年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	1,113	1,996	2,636	2,715	2,796	3,909
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	協議会内の宿泊者数：(単位：千人) 2023 年度協議会内宿泊者数の対前年度比 3%増を目標として設定					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②－A：地域の文化に誇りを感じる住民の割合						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	369	212	212	222	232	242
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	アイヌ文化に関心・興味を持っている割合：（単位：％） 2024 年度に日本遺産に係る認知度調査を行い、その調査結果を基準とし、5 ヶ年で基準年度比 20%増を目標として設定					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：日本遺産のための寄付による調達額						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	642	689	881	969	1,065	1,171
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		2023 年度を基準とし、対前年度比 10%増を設定（単位：千円）				
目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－B：アイヌ関係の商品開発数						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	20	20	20	25	30	35
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		各構成自治体で、毎年 5 品以上の商品開発をする。				

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産のためのクラウドファンディングによる調達額						
年度	実績（延数）			目標（単年度）		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	1,400	1,400	1,400	1,540	1,694	1,863
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	2023 年度を基準とし、対前年度比 10%増を設定（単位：千円）					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：日本遺産への協力団体数						

年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	199	199	199	204	209	214
指標・目標値の設定の 考え方及び把握方法	2023 年度を基準とし、毎年 5 団体と協定を締結する。					

（３）地域活性化のための取組の概要

北海道の中央部にある上川アイヌ文化とゆかりの深い大雪山麓地域は、日本遺産に認定された平成 30 年には 13,939 千人の観光客入込（うち外国人観光客は 2,885 千人）を誇る道内屈指の観光エリアであります。コロナ禍による緊急事態宣言等により令和 2 年には 7,110 千人（うち外国人観光客は 1,073 千人）と大きく影響し、令和 5 年には回復傾向であるものの、平成 30 年水準まで達していないなど、圏域の地域活性化のための再整備が急務となっております。

そのような状況下、地域資源の魅力を全国に広め、地域活性化の基軸として日本遺産のブランド力を活用すべく、大雪山麓の地域が連携を深め、アイヌ文化の魅力や大雪山の美しい景観を国内外に発信し幾度となく訪れたいと思うエリアとして認知されるよう、協議会が旗艦となり行政が民間団体の自走可能な環境を整備し、行政・観光協会等が一体となった観光振興、交流人口の拡大による地域経済の活性化の促進、豊かな地域社会の実現を図ります。

また、アイヌ文化の啓発を後世へ伝えるべく文化財の保全やプロデューサーやガイドの育成を進めていくことで、サステイナブルな観光地を構築いたします。

各種計画との関係においては、現在、構成自治体において「アイヌ施策推進地域計画」の策定が進み、主には（１）アイヌ文化の保存又は継承に資する事業、（２）アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業、（３）観光の振興その他の産業の振興に資する事業について盛込み、本計画の事業を具現化させるための施策の方針に沿う形で、「上川アイヌ日本遺産ブランド」を構築してまいります。

１．目標達成の手段の概要

「上川アイヌ文化と大雪山」をコンセプトに各自治体におけるアイヌ推進計画を軸とした徹底的な観光戦略のもと、構成団体、特に（一社）大雪カムイミントラDMO、地域DMC、観光協会等と協力し、国内外それぞれの観光客の旅行ニーズ分析のもと、受入れ態勢の整備を拡充致します。そして、本圏域での滞在時間の長期化や観光消費の拡大を目的とした商品開発の造成により、地域の稼ぐ力を高めていきます。同時に持続可能な観光地づくりを進めるため、協働型の管理運営を図り新たに提言し、引き続きこの圏域の持続的な発展に向けて、中核的な役割を果たします。

２．事業全体の考え方

①アイヌ文化の体験事業

■観光客が認定地域に訪れた際に、アイヌ文化を肌で感じられる体験プログラムを整備致します。

【具体的な体験プログラム】

・『フクロウ神事』～アイヌの人々と一緒に民族衣装を纏い、シマフクロウを天に送る儀式の体験

・『アイヌ伝統儀式』～各地で毎年行われる多様な伝統儀式の観覧やアイヌ古式舞踊の体験

・『各種アイヌ文化体験』～リニューアルされた川村カ子トアイヌ記念館を拠点にアイヌ

の方々と実際に交流しながら、アイヌ文様刺繍・切り紙体験、伝統料理講習、伝統楽器ムックリの製作・演奏体験

■上記のような異文化体験事業については、伝承者に担い手不足や、体験施設や備品等の老朽化等の課題も多いため、伝承者の育成や環境整備についても進めていきます。また、アイヌ関係団体と連携を図り、アイヌ文化の講師や観光ガイドを依頼し、アイヌ文化に興味のある観光客に理解を深めてもらいます。

②観光客が「日本遺産」を身近に感じることができる環境整備

- ・構築したポータルサイトについては構成文化財のほか、各種観光資源についても情報のリニューアルを適宜行い、引き続きプロのライターを活用し地域の魅力やイベント情報を十分に引き出していきます。また、YouTube や Facebook 等のインターネットメディアを活用した Web プロモーションを実施します。

- ・各文化財に設置した案内板・説明版についてはストーリーのボリューム等について再度全体の検証を実施し、QR コードを活用したセルフガイドの仕組みを構築し、来訪者がガイド無しでも文化財について学ぶことができる仕組みを構築します。また各施設の老朽化状態を確認し必要に応じ再整備を図ります。ストーリーと場所がより分かりやすいパンフレットの再整備を進めていきます。

- ・既存施設を活用した日本遺産コーナーについては、必要に応じ更新・拡大を進め、地域の情報についてアピールをすすめます。

③アイヌ全体の歴史文化の啓発と上川アイヌ独自の歴史を普及するために

- ・大雪山麓地域のアイヌ歴史文化の保全及び理解を深めていくためには、北海道全体のアイヌの歴史を知ることからはじまり、その中で厳しい気候と神同士の戦いの伝説が宿るこの地独自のアイヌ文化を認知することが重要です。

- ・他の地域ではアイヌの方による展示施設やイベント等が展開されているが、内陸の大雪山麓独自の山々を舞台とした上川アイヌの歴史は他のアイヌ文化とは違い、食や住居、崇拜対象が異なるため、他の地域と連携し、アイヌ文化をこれから知る方を対象に、より深掘が可能なコース造成をすすめてきます。

- ・アイヌ文化をより知っていただくために、来訪者や地域住民、各種団体、行政など多様な人材が集まるシンポジウム等の開催をすすめます。中でも地域住民が正しい歴史認識を知り、より日本遺産が身近な存在と再認識できるように、構成団体が一つになって各種催しやイベント等の開催について追及し、歴史・文化・伝統を改めて認識することが、文化財を守り活用する意識の醸成が進み、価値が高まると考えます。

- ・国立公園に指定されている大雪山は、壮大で美しい風致景観だけではなく、希少な動植物が生息し、豊富な温泉が湧き出ているなど、自然の豊かさを感じられることから、観光客誘致による交流人口の拡大のほか、気候変動等による土壌流出や植生の損傷も深刻な問題であることから、保護活動についても積極的に取り組みます。

- ・官、学、民が連携し構成文化財関連の新たな歴史的事実の把握及び普及啓発に努め、新たな興味深い情報を発信していきます。教育関連事業については、現在配布している副読本の更新による新たな興味の発掘を進めるとともに、総合学習においてアイヌの方々との

交流を持つ機会を創設するとともに、アイヌの方々を講師とした講座を引き続き開催し、正しい歴史認識と将来に向けた文化保存について考える機会を創設します。

④インバウンドを意識した事業の展開

- ・近年改めて増加している外国人観光客の誘致対策として、誘客の可能性が高いターゲット国を絞り込み、集中したプロモーション展開を進めます。
- ・外国人観光客への対応に関しては、多言語の案内が不可欠であるため、観光協会やDMOと連携し、多言語案内人の育成や配置を進めると共に、官公庁に対してさらなる案内板の整備を提言するとともに、協議会として独自の案内版の再整備を図ります。
- ・大雪山圏の地域を売り込んでいくためには、旭川空港の国際線の運航が重要であるため、旭川圏域誘致宣伝協議会等と連携を取り、さらなる誘致を進めます。

⑤日本遺産の来訪客を各地域の観光資源へと誘導するツアー・モデルコースの作成

- ・この圏域は温泉が豊富で宿泊施設が多く、滞在型観光が可能なキャパシティがあり、道外客や外国人を受け入れるポテンシャルが高い地域であるため、上川アイヌの歴史文化を存分に味わい、大雪山麓の温泉・食・景観などを堪能し、近郊の観光資源、観光スポットにも周遊できるようなモデルコースを設定し、ツアー化を図ることで来訪者の増加を促します。また、この地域の魅力を観光客に的確に伝えるため、アイヌの人々に各地域のアイヌ伝説聞きながら跡地を巡るツアーの実施や、ご当地のツアーガイドを育成していきます。
- ・宿泊施設や観光スポットの計画的な再整備が上質化を図るうえで重要となることから、自治体と連携し観光利用拠点における整備計画の推進を進めます。また、キャッシュポイントを整備することで地域で稼げる観光地化づくりと、それを原資として「ゆったり、のんびり」過ごすことができる滞在型観光地の整備促進を図ります。
- ・ターゲット層を、①北海道外旅行者、②国内富裕層、③欧州・台湾・シンガポールを中心としたインバウンド、④他地区のアイヌ文化施設及びイベント来訪者を軸とし、積極的に学び、周遊し、体験し、食と宿を楽しめる観光地を整備することで、リピーターやファンを増やすことで地域振興や寄付・協力金の増加を目指します。

⑥日本遺産の文化財を守る協働型管理運営の取組の推進

- ・当日本遺産を継続して守り、将来へ引き継ぐためには行政予算のみで整備をすることではなく、訪れた方の寄付金や協賛金、ボランティアを活用した取組をより推進していく必要があります。現在のアイヌの活動拠点及び代表展示物であるチセや、大雪山全体の景観や植生は、地域の誇りであり、来訪者を魅了する文化財であります。しかしながらそれらを守り続けるには、技術の継承や安定した資金が必要であることから、地域住民や訪れた方に魅了いただき、よりファンを増やし、その中から協賛いただいた資金において計画的な整備を続けるサステナブルな取組を進めていきます。
- ・現在、大雪山全体に自然保護の協力金が進められ、国内の国立公園の中でも協働型管理運営の見本となっています。当取組は環境省の「大雪山国立公園における協力金取組方針」に沿った取組であり、官と民が協力して維持管理を行っているものです。大雪山に限らず

アイヌの歴史的な文化財においても、保全の一定基準を定め、サステナブルな管理運営を進めてまいります。

⑦上川アイヌ・大雪山・食文化、オリジナル商品の開発事業

・圏域では特色のある食資源あり、ブランディング化は進んでいるが、日本遺産に特化した商品化をさらに推し進める必要がある。農業関係者、食品加工、飲食店などの事業者や地域住民との連携により、この地域の特色ある多様な食材を高品質で安全安心な大雪ブランドとして商品化を図り、認定地域の飲食店で販売致します。

・企業と連携したコラボ商品については、アイヌ団体と意見調整のうえ、圏域でしか手に入らない上質な商品の開発をすすめてまいります。

⑧関係省庁及び関係団体との連携した取り組み

・歴史文化の伝承、観光分野にとらわれることなく、多角的視点からブランド価値を高め地域活性化へとつなげていくため、国・自治体・民間団体との連携を深めていきます。そのために関係省庁及び各種団体の事業と十分な協議、意見反映をすすめていきます。

（３）自立的・継続的な取組

■認定後５年が経過し、各構成団体による取組が進む中、取組を強化することが望ましい事業もあることから、協議会として日本遺産関連のふるさと納税の取組について助言、提案を行い、民間による自走可能な取組の援助を行うとともに、各構成民間団体が地域の旗振りとなれるよう、日本遺産の活用や保全、資金調達の受け皿となり、地域が潤う仕組みの整備をより進めます。また、協力事業所には、情報発信、啓発活動等のプロモーションの手法についてアドバイスを行い、地域が一体となって認定地域への誘客を促進します。

■商品パッケージの開発や集客にかかる事業については、これまで、コロナ禍が影響し、積極的な事業展開に消極的な部分がありましたが、地域DMOや観光団体が現在積極的な観光パッケージを開発していることから、各種補助事業を活用した将来的にも自走可能な観光振興の取組を展開していけるよう提言していきます。

（４）圏域のあるべき姿

■来訪者の姿

コロナ禍以前の状況と比べて 7～8 割程度まで客数が回復してきているものの、旅行形態が団体から個人へ変化してきていることを見据え、協議会としては旅行形態の変化に対応した体験型プログラムや滞在型プログラムの充実を図る必要があります。特にアイヌ文化を「知る」「見る」「触れる」機会は重要であり、ツアー造成や展示施設の充実、文化の発信を目的としたイベント活性化は、今後必須と言えることから本圏域の魅力発信及び周遊促進を目指し、満足度の高い取組を進めます。

また、文化財の保全にあたっては来訪者も、地域の将来へつなげていくことの理解がすすみ、日本遺産の保全に参画できる取組を進めます。

■地域住民の姿

日本遺産認定を契機として、地域に住む人々がこの地のアイヌの歴史文化と大雪山の魅力を再認識し、また後世へと語り継ぎ、誰もが自分たちの住んでいる地域に誇りと愛着をもって住み続けたいと感じております。しかし、人口減少や少子高齢化の問題は当地域にも影響を及ぼしており、アイヌ文化の伝承も大きな課題である中、日本遺産のブランド力を有効に活用し、新たな関係産業の発掘やガイドの育成について追及し、この地域に活気と潤いを与え、若い世代の定住や民間活力を見出すとともに、地域一丸となった持続可能な経済活動を支える環境づくりが進められております。そして将来にわたり、そこに住む住民の郷土愛を育み、このエリアの歴史的・文化的資源の伝承に努め、地域のよりよい環境づくりに積極的に参画できるような仕組みを生み出し、魅力ある地域づくりを実現します。

■構成自治体の姿

現在、構成自治体の負担金を中心として協議会が運営され、普及啓発活動等を実施しておりますが、文化財の保全や人材育成、民間支援については安定した行政予算が必要であることから、ふるさと納税や各種寄付金の取組や補助金メニューを活用し各種整備を推進し、自走可能な状態を構築します。また、日本最大級の面積を誇る大雪山にまたがる12市町の足並みを揃えた取組を強化すべく、連絡会議等において意思疎通を図るとともに、いち自治体の観光の取組ではなく、地域の周遊について進めます。

また、利用者とともに文化財を守る協働型管理運営の取組を提案し、行政予算及び事業のみに頼らない寄付金やイベント等の仕組を構築します。

■民間事業者の姿

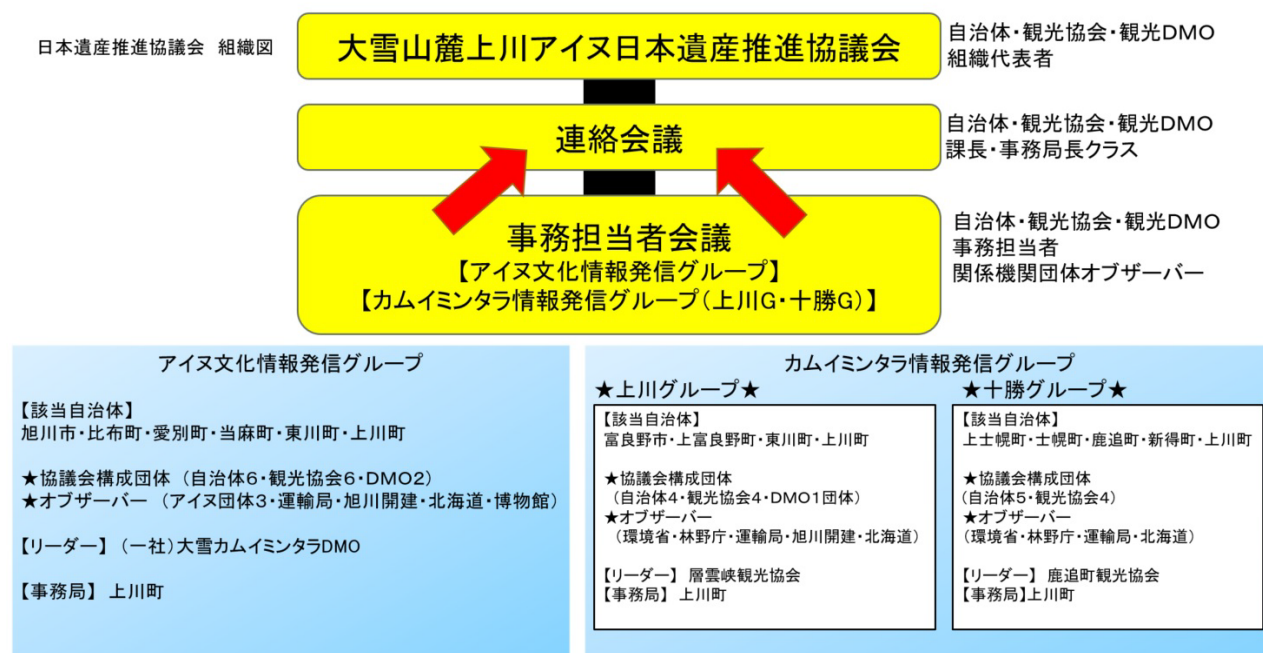
この地域が幾度となく訪れたいと思うエリアとして認知されるよう、観光協会やDMOが中心となって、新たな商品開発、認知促進、販売促進、リピート促進（ファン獲得）への行動を通じて本圏域の魅力発信及び周遊促進を目指した取り組みを進めることにより、持続可能な地域経済の活性化を推進します。

■アイヌ団体の姿

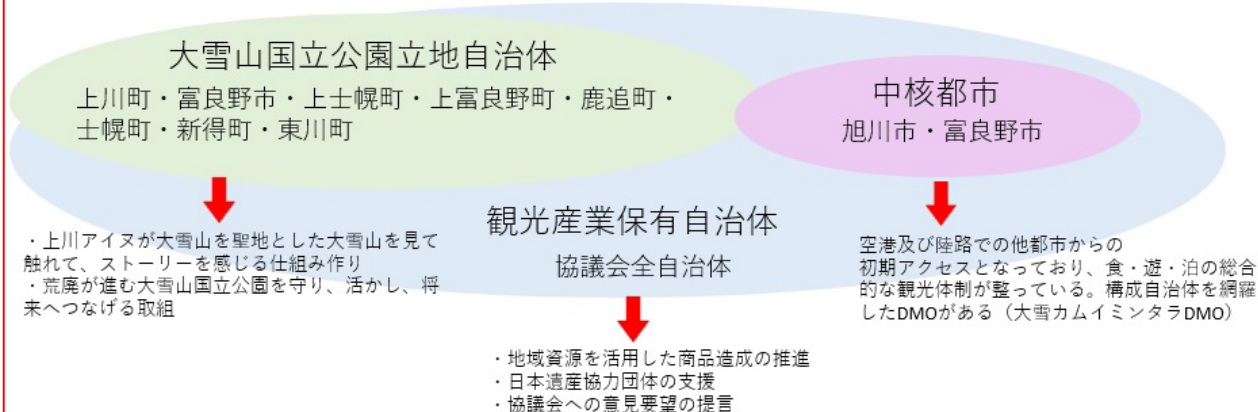
現在、イベント等において普及啓発活動を行っているものの、アイヌの方々や歴史や文化の伝承者が今後減少することが予想されます。伝統技能の継承はアイヌの方以外の地域住民が継承し、来訪者が正しい歴史認識を得る仕組みづくりについて協議会として支援を行い、アイヌの方々が引き続き自発的に活動可能な場を構築します。

(4) 実施体制

実施体制は下記の通りとし、引き続き協議会事務局を上川町で担うこととする。



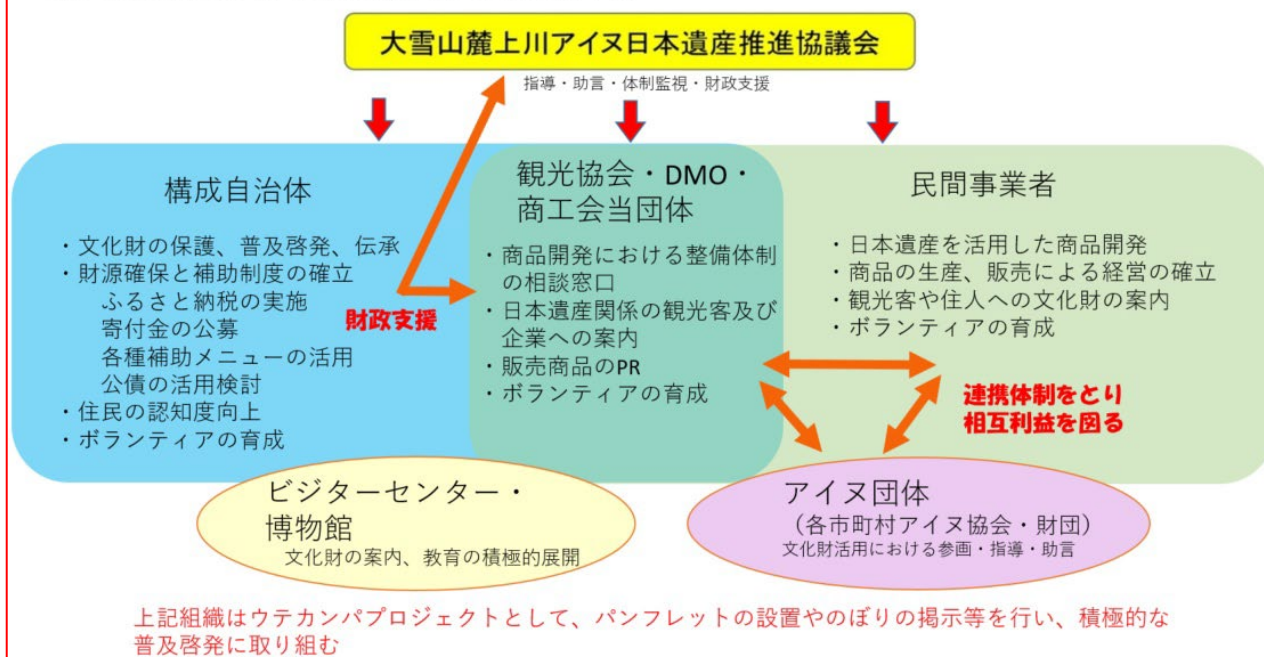
構成自治体の特徴と戦略



- ・自治体の観光戦略には、資源や財政等の問題でバラつきが生じるが、事業実施自治体として、ふるさと納税や寄付金などの新設や促進について、連絡会議において課題共有、提言を行う。
- ・上川アイヌをゆかりとする文化財やアイヌ団体についても自治体においてバラつきがあることから、自治体間連携を行い、周遊可能な商品開発をすすめる。

アイヌ推進計画策定自治体については、本計画の遂行にあたっては協議会と連動した取組を実施し、計画変更においては、協議会の意見を参考に整合性を図るとともに、地域振興を軸とした計画策定を行う。

以下の組織体制において、日本遺産事業の推進を図ることとする。



〔人材育成・確保の方針〕

日本遺産ストーリーに基づくガイド養成事業、ガイドマニュアル研修の整備

① 観光団体関係者の意識造成

不足している大雪山地域の魅力を発信できるガイド等の地域プレーヤーについては、観光協会やDMO、観光案内ボランティア、ビジターセンター等観光に携わる方々を対象に日本遺産関連の学習会等の普及啓発を実施。日本遺産を活用するにあたり、構成する文化財や地元ならではの魅力の再認識を進めるべく、協議会が主体となり研修会の機会について広く案内を行う。また、自治体職員の日本遺産の理解を深めるため、職員全体で学習会や現地研修を実施、担当する職員はより普及啓発及び各関係団体や協力団体の要望の受け皿、あるいは教示できるよう各スキルアップ研修に努める。

② 旅行会社との連携

地域資源の活用にあたって、DMOが主体となり、旅行会社に対しての日本遺産のPRを行うと共に地域へ実際に足を運び現地学習を含めた旅行商品造成の可能性について協議をすすめ、ツアーパッケージ化を進める。

地域プロデューサーの育成と事業化の推進

① 多業種から地域プロデューサー・地域プレイヤーの探索

日本遺産を活用した地域活性化に向けては、継続的な人材発掘・育成が必要である。各地域には若手や移住者、地域おこし協力隊など地域活性化を担うプレイヤーが存在する中、日本遺産に係るプロジェクトを主体的に実行できる地域プロデューサーが必要であり、協議会が地域プロデューサーを組織化することが望ましい。

② 日本遺産活用のワークショップ実施

地域プロデューサー及びプレイヤーの活性化の手段としてワークショップを開催する。

具体的には他地域の成功事例の吸い上げと共有（勉強会など）を実施。実施には民間事業者による関連事業の支援について協議会がサポートを行う。ストーリーを伝える事業の展開構成文化財を後世に引き継ぐため、協議会として旅行商品の造成をすすめていく中で、日本遺産のストーリーを伝える案内役として官民一体となって育成支援を行う。

（５）日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

■組織の自立・自走化・官民協働型の運営

●日本遺産共創コラボレーション事業

認定から３年目（令和２年度）に収益化事業の仕掛けを作ったが、コロナ禍に入り事業実施に至らなかった。現在は、各自治体からの負担金により事業展開している。

●ふるさと納税やクラウドファンディング、寄付金や協賛金等の優良な取組み事例を参考に自立、自走化に向けたインセンティブなどの仕組みづくりを推進する。関係団体との連携をさらに深め、経済循環の創出などに取組む。また、当該エリアの周遊化・長期滞在化を促進させ観光消費の拡大を図るとともにエリアのブランド化を推進する。また行政予算のみに頼らない整備及び維持管理の手法を確立する。

●組織の自立化にあたっては、継続して各自治体からの負担金を基本とし、協議会が中心となって事業展開を行うこととする。

- ・日本遺産共創コラボレーション事業については引き続き展開を推進する。
- ・ふるさと納税やクラウドファンディング等の取組み事例を参考に各自治体それぞれが自立、自走化に向けたインセンティブなどの仕組みづくりを推進し、日本遺産を観光資源としての活用について事業を展開する。
- ・構成観光協会は、自治体で推進する観光資源についてのPRを行い、事業者との連携、既存の取組との連携を図る。
- ・構成DMO及び地域DMCにおいては、ツアーパッケージ化を行い、幅広く誘致を行う。四者間は常時連携、情報提供を行いつつ、役割を果たすものとする。

（６）構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

当日本遺産は、旭川空港、旭川駅を当地域への入口とした、都市と文化・自然が融合質の高いアドベンチャーツーリズムの提供が可能である。夏はトレッキングやサイクリング、カヌーイングなどを大雪山一帯で体験ができ、冬はパウダースノーと名高く海外からもスノーアクティビティを楽しみに来訪される実態から、四季のアクティビティを造成するとともに、２か所のジオパークを有することから、多様かつ深い学びにつながる旅行体験を提供していくことで、より高単価な誘客が期待できる。

圏域は温泉街が形成され、国立公園内集団施設地区の存在する。また旭川市と富良野市においては大型宿泊施設が多数存在することから、各地域の観光資源、関係者を結びつけた周遊・長期滞在型の誘客が可能であることから、旅行者にとって付加価値の高い旅行商品・旅行モデルの造成を引き続き推進し、都市型リゾートの形成の取組を実施する。

■構成文化財の利用と保全が一体となった取組みにより、利用者参加型のモデルケースとなっていることから、文化財の継承と利活用の組み合わせによる魅力創出がさらに進むこ

とで保存と活用の好循環が生まれている。構成団体一体となって、地域資源のさらなる磨き上げと地域特性をブラッシュアップし、保全活動を組合わせた圏域の周遊・長期滞在化を促進させ観光消費の拡大を図るとともに、エリアのブランド化を推進する。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	組織整備と地域間連携		
概要	・リーダーシップの発揮 ・ボトムアップの仕組 ・地域間連携の仕組		
	取組名	取組内容	実施主体
①	プロダクト共創 プロジェクト パートナー募集事業	当地域内の事業者と当日本遺産の PR となる商品の開発、販売を通じて、日本遺産認定の認知拡大と地域の魅力発信を図る。	協議会
②	ウテカンパプロジェクト事業	アイヌ語で手をつなぐという意味の「ウテカンパ」を銘打ったプロジェクトを実施し、PR に協力してもらえる事業者・団体を募集し、日本遺産の認知拡大と地域の魅力発信を図る。	協議会
③	日本遺産関連イベントへの参画	日本遺産に対する理解と関心を高めることを目的に実施されている各種イベントにおいて、本協議会として魅力向上を目的として PR ブース等の運営を行う。	自治体 協議会
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	個人サポーター、法人パートナー数（単位：団体）		199
2022			199
2023			199
2024			205
2025			210
2026			215
事業費	2024 年度：300 千円 2025 年度：300 千円 2026 年度：300 千円		
継続に向けた事業設計	15 団体と締結し、毎年 5 団体と協定を締結する。		

(事業番号 1 - B)

事業名		日本遺産のための寄付・クラウドファンディング	
概要		日本遺産のための寄付及びクラウドファンディングによる調達を推進する	
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産のための寄付	日本遺産事業の活用を目的とした協賛及び寄付にかかる事業展開を図る	協議会及び構成団体
②	日本遺産のためのクラウドファンディング	日本遺産事業の活用を目的としたクラウドファンディングにかかる事業展開を図る	協議会及び構成団体
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産のための寄付及び蔵人ファンディング調達額（単位：千円）		642
2022			689
2023			881
2024			969
2025			1,065
2026			1,171
事業費	2024 年度：	2025 年度：	2026 年度：
継続に向けた事業設計	前年度比 10%増の目標値を設定する。		

(7) - 2 戦略立案			
(事業番号 2 - A)			
事業名	日本遺産関連の商品・サービス展開		
概要	アイヌ文化とのコラボした商品メニューの開発		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産関連で開発された商品・サービス数	アイヌ関連商品や、アイヌ料理等とのコラボメニューの商品開発を実施。	協議会及び構成団体、地域事業者
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	各構成自治体等で、毎年5品以上の商品開発をする。 (単位：団体)		20
2022			20
2023			20
2024			25
2025			30
2026			35
事業費	2024 年度：100 千円 2025 年度：100 千円 2026 年度：100 千円		
継続に向けた事業設計	民間事業者による商品開発にあたっては協議会としても協力体制をとり、支援を実施する。		

(7) - 3 人材育成			
(事業番号 3 - A)			
事業名		日本遺産人材育成及びモデルコース作成事業	
概要		当地域への誘客を促進するため人材育成及びモデルコースを作成する。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産ガイド養成事業	日本遺産の旅行商品造成に向けたガイド養成及び日本遺産普及を図るため、日本遺産の解説を実施し、地域内で自走できる仕組みづくりを図る。	協議会
②	日本遺産人材育成事業	観光事業者等の理解を深めることで自発的な情報発信を促し、また他事業との連携をとり、当地域の魅力をわかりやすく発信するためのマニュアルを作成・地域の協会や観光案内ボランティア、ビジターセンター等の観光に携わる方々を対象に研修会実施。	協議会
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産ガイド養成受講者数（単位：人）		19
2022			19
2023			19
2024			24
2025			29
2026			34
事業費		2024 年度：100 千円 2025 年度：100 千円 2026 年度：100 千円	
継続に向けた事業設計		当地域人材育成講座受講者を 5 人程度実施する。	

(7) - 4 整備			
(事業番号 4 - A)			
事業名		日本遺産関連情報発信整備事業	
概要		ストーリーを伝える仕組み、構成文化財の継承を推進する。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産文化教育事業	本地域に住む誇りと郷土愛を育み、この地域を訪れる観光客に自信をもって接遇できる機運を高めるため、学習教材の活用事業を図る。	協議会
②	日本遺産構成文化財説明看板整備事業	整備を行った説明看板の状況確認を行い、必要に応じ、整備・補修・盤面追加を実施。	協議会
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	構成文化財看板の設置数/修繕等整備数(単位:基)		22
2022			22
2023			22
2024			22/0
2025			25/5
2026			25/10
事業費		2024 年度 : 500 千円 2025 年度 : 1,000 千円 2026 年度 : 1,000 千円	
継続に向けた事業設計		日本遺産のサブストーリーを含め、知り学び楽しむ情報発信を国内外に発信するための仕組みについて整備を図る。	

(7) - 5 観光事業化			
(事業番号 5 - A)			
事業名	ツアー造成事業		
概要	当該地域への誘客促進を図るためのモニターツアーを実施し、体験プログラムの開発を通じて上川アイヌの世界観や心の豊かさを学ぶ機会を創出する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	モニターツアー事業	モニターツアー実施に向けて、地域の事業者等を対象とし、当日本遺産をどのように地域活性化に結びつけていくかを考え、今後の継続・定着化を視野に入れた実践的なワークショップ等を開催する。	協議会
②	日本遺産周遊ルート造成事業	誘客促進に繋がるよう、DMO が中心となり、地域内周遊ルート商品造成する。	協議会 及び DMO
③	日本遺産マッチング・相談会の参加	日本遺産を活用した訪日外国人旅行者誘客による地域活性化を目的として旅行会社との商談会等に参加し PR を実施する。	協議会
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産関連施設入込数（単位：人）		117,453
2022			114,410
2023			150,000
2024			154,500
2025			159,135
2026			163,909
事業費	2024 年度：1,000 千円 2025 年度：1,000 千円 2026 年度：1,000 千円		
継続に向けた事業設計	前年度比 10%増加に向けた入込増に向け、ツアー造成を図る。		

(7) - 6 普及啓発			
(事業番号6-A)			
事業名		日本遺産普及啓発事業	
概要		日本遺産の魅力をアピールし、当地域への誘客を促進する。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産魅力創出・誘客促進事業	日本遺産 PR 事業（ポスターの更新）、日本遺産コーナー整備事業（PR ブースキットの整備）	協議会
②	日本遺産シンポジウム開催事業	大雪山と上川アイヌ文化についての日本遺産に対する理解を広めるとともに、日本遺産を活用した地域活性化に向けて、機運の醸成を図るため、シンポジウムを実施する。	協議会
③	日本遺産プロモーション事業	首都圏等 で開催されるイベント等において、地域の DMO やアイヌ団体等と連携しプロモーションを実施する。 ムックル実演や当該地域のPR活動、北海道ヘリテージウィーク・地域遺産PR イベント in チカホ等の道内行事においてブース出展等普及啓発活動を実施する。	協議会
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	認知度調査（単位：％） 2024 年度以降は 2023 年度を基準とする。		369
2022			212
2023			212
2024			100
2025			120
2026			140
事業費		2024 年度： 500 千円 2025 年度：500 千円 2026 年度：500 千円	
継続に向けた事業設計		2024 年度に日本遺産に係る認知度調査を行い、その調査結果を基準とし、5 ヶ年で基準年度比 20%増を目標として事業設計	

(7)－7 情報編集・発信				
(事業番号7－A)				
事業名		日本遺産ポータルサイト構築・運営事業		
概要		ストーリーを伝える仕組み、構成文化財の継承を推進する。		
	取組名	取組内容	実施主体	
①	日本遺産ポータルサイト構築・運営事業	日本遺産を国内外に発信し、この圏域への旅行意欲を促すポータルサイトを引き続き運営。 多言語化、ストーリー概要と地図、構成文化財一覧リスト、構成文化財概要、観光スポット情報、地図に近隣情報をマッピング、近隣情報への回遊の掲載	協議会	
②				
③				
④				
年度	事業評価指標		実績値・目標値	
2021	上川アイヌ日本遺産ポータルサイトのPV数 (単位：ビューア)		97,931	
2022			126,847	
2023			130,000	
2024			208,000	
2025			332,800	
2026			532,000	
事業費		2024 年度：300 千円 2025 年度：300 千円 2026 年度：300 千円		
継続に向けた事業設計		日本遺産のサブストーリーを含め、知り学び楽しむ情報発信を国内外に発信するための仕組みについて整備を図る。		